

音楽科学習指導研究委員会

一 研究テーマ

「思いや意図」をもって、意欲的に表現する子どもを求めて

二 テーマ設定の理由

本委員会では、上記テーマを継続的に掲げ実践を積み重ねてきた。昨年度までの教育課程研究協議会および、昨今では長野県音楽教育学会上小大会（平成30年度）、全日本小学校管楽器教育研究大会長野県上小大会（令和元年度）等の大会を通して、多くの参会者の先生方からいただいた意見や示唆から、次のようなことが明らかになってきた。

- ① 音楽の要素の一つであるリズムについては、義務教育9年間の全ての学習につながってくる、その年、その時に確かな基礎力として身につけさせたい。
- ② 音楽づくりでイメージを表現するためには「題名（タイトル）」をつけることが有効である。大切にしたいのは、「やさしくそっと風が吹く」（pp でゆっくり弾く）、「あかるくふりそそぐ」（f で音が細かく、速く）というように、音楽表現に直接つながるタイトルをイメージさせることである。
- ③ 楽曲の持つ魅力を感じたり、音楽的にも言語的にも表現を深めたりするためには、比較することが欠かせないと思う。例えば同じ楽曲でも、異なる楽器での演奏では、全く違う楽曲に聴こえる場合がある。これには、特徴を感受し、違いを思考した上で、相手に伝える言語化の力が必要になり、その繰り返しから音楽を感じ取る力が身についてくると考えられる。
- ④ 音楽をより身近に、そして深く感じるためには、音楽科の学習と共に、カリキュラムマネジメントを実践し、教科等の横断的な取り組みや、学年を越えた学習が必要になる。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、教育課程研究協議会が中止になったことをはじめ、様々な研究の場の設定が難しくなった。その中で行われた小学校の授業研究からは、学校における音楽科の果たす役割を改めて考えるきっかけをいただけた。また、上小の小中学校音楽科の先生方にアンケートに協力していただき、現状での音楽教育の困難点のみならず、私たちにできることを探っていくことが大切であると教えられた。この実践をもとに来年度、この状況の中で音楽科としてできることを実践していきたい。

三 研究の経過

第1回	5月13日	委員会	研究テーマ設定と研究計画の承認（書面にて）
	9月9日		アンケートの依頼
第2回	10月28日	委員会	授業参観（北御牧小学校）
第3回	11月27日	委員会	アンケート考察、本年度のまとめ
	1月21日		研究発表会

四 研究の内容

1 小学校実践

令和2年度 音楽科学習指導案

日時	令和2年 10月28日(水) 第3校時
題材名	「せいかつの中にある音を楽しもう」
授業学級	2年竹組 男子12名 女子8名
指導者	長野県総合教育センター 波場 智美先生
授業者	教諭 渡邊 美奈子
授業会場	音楽室

I 全校研究テーマ

人・物・ことにかかわりながら、自らの学びに夢中になる子どもたち

II 音楽部会研究テーマ

主体的に音と向き合い、仲間と共に音楽をつくる喜びを感じることができる子どもの育成

III 学習指導案

1 題材設定の理由

これまでの学習では、2拍子と3拍子の曲の拍打ちや身体表現を通して、拍子の違いを感じとったり、「かえるのがっしょう」の輪奏を通しておいかけこの面白さを感じ取ったり、「ぷっかりくじら」の歌と楽器の音を重ねてどんな歌い方や演奏の仕方がいいのか考えたりしてきた。どの学習も素直に取り組む様子が見られた。しかし、これまで行ってきたのはどれも、音色やリズム、拍などの音楽的な要素が含まれる音および音楽を扱う単元であり、「音楽を形づくっている要素を含まない音」に関しては授業で意識することはあまりなかった。これまで授業で扱うことのなかった身の回りにある音を「音」として意識させることによって、すべての音が自分に関わりのある音として聞こえてくるのではないだろうか。そのことは音に対する感受性を育て、音に共感できる態度を育成し、社会の中の音と豊かに関わる資質を育てることにつながるのではないだろうか。

「せいかつの中にある音を楽しもう」の単元は、音楽になる前の「音」に向かい合うところから始まる。「音」は身の回りにたくさんあるにもかかわらず、普段あまり意識されない。しかしいったん身の回りの音に気づくと、いろいろな種類の音がいろいろなところから出ていることがわかる。自分が見つけた音を自分の声で表現し、友達の声と組み合わせて音楽をつくるこの単元は、子どもたちが自分の感性を使って音と向き合える学習といえるのではないか。まずは、見つけた音を自分の声で表現する活動を子どもたちに楽しんでほしいと考え、拍にのせながら見つけた音を一人ずつ声で発表し、すぐにみんなでまねをするという「まねっこ遊び」を授業の初めに位置づけることにした。このような遊び感覚の活動を何度か経験しておく、その後の仲間とともに行う音楽作りの学習に抵抗なく入れるのではないかと考えている。これらをふまえ、仲間と共に音楽をつくる喜びを感じることができる子どもに育ててほしいと考え、本題材を設定した。

2 題材の目標

- (1) 身の回りの音の特徴に気づき、即興的に声で表現したり、音の重ね方に気をつけながら反復を用いて音楽を作ったりする技能を身に付ける。〈知識・技能〉
- (2) 身の回りの音の音色を生かし、音遊びをして音楽作りの発想を得たり、声のつなげ方や重ね方、反復の仕方について思いをもったりする。〈思考・判断・表現〉
- (3) 身の回りの音を探し、それらの音を声で表現したり友達と協力して音楽を作ったりする学習を楽しみ、生活の中にある音への興味・関心を広げる。〈主体的に学習に取り組む態度〉

3 評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思・判・表)	主体的に学習に取り組む態度(態)
① 生活の中で聞こえる音の特徴に気付いている。 ② 聞こえた音の感じを即興的に声で表現する技能を身に付けて友だちと伝え合っている。 ③ 聞こえた音を表現した声のつなげ方や重ね方の特徴に気付いている。 ④ 聞こえた音を表現した声を組み合わせ、反復を用いて音楽をつくる技能を身に付けてつくっている。	① 聞こえた音の音色を聴き取り、その音のよさや面白さを感じ取りながら、どのように声で表すかを工夫しながら、音楽づくりの発想を得ている。 ② 声の音色を生かし、その組み合わせが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、声の重ね方や反復の仕方を考え、どのような音楽にするかについて思いをもっている。	① 身近な生活の中で聞こえる音から、身の回りにある多様な音に興味・関心を広げながら、聞こえた音を声で表現したり友達と音楽をつくったりする学習に楽しんで取り組もうとしている。

4 児童の実態

新しい曲を聴くときに、体をゆらしたり、拍打ちをしたりするなど反応する子どもが多い。興味のあることは集中して取り組める。経験してきたこと、出来るようになったこと、ある程度答えが決まっていることについては、積極的に発表できる子どもが多い。鍵盤ハーモニカの練習の様子から技能的な習得に時間がかかる子どもが多いことがわかった。この単元は技能面での差がないため、どの子どもも抵抗なく取り組むことができる利点がある。この単元を通して、自分やグループの思いに沿った音楽作りにつなげたいと考えた。

5 題材の指導計画

時	主な学習活動 ●学習内容【音楽を形作っている要素】	主な教師の関わり【評価基準】 ◆評価基準 C:C 評価の児童への手立て	学習指導領 との関連
1	●「音見つけ」をして、見つけた音を声で表現する。【音色】 ・聞き取った音を声で表現する。 ・見つけた音を紹介し、よさや面白さを共有する。	◆生活の中で聞こえる様々な音の特徴に気づいている。 C: 友達の音を聞かせて参考にさせる。教師と一緒にやって、見通しをもたせる。	【知①行動観察、】
2	●お題を聞いて、声の出し方を工夫しながらで表現したり、友達の表現をまねたりする。(まねっこ遊び)【音色、反復、よびかけと答え】 ・音の種類により2～3人のグループを作り、声の感じに気をつけながら見つけた音を伝え合ったり	○発表した表現を学級全体で模倣し、共有する。 ◆音の感じを即興的に声で表現する技能を身に付けて友達と伝え合っている。 C: 教師や友達がイメージを持てるように積	【技2演奏聴取、発言内容】

	重ねてみたりする。	積極的に声をかける。できたことを認めていく。	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・まねっこ遊びをする。 ・自分の付箋の色を決め、その1枚に自分の音の言葉を書く。それを基本単位として、自分たちのグループの音の組み合わせ方を、シートと付箋を使って貼っていく。必要に応じて書き込みをしたり、折ったり切ったりする。何度も音で確認しながら行う。 ●声の組み合わせ方が色々あること、組み合わせ方によって音楽の感じが変化することを理解する。【縦と横の関係、反復、音色、強弱、重なり】 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表した表現を学級全体で模倣・共有。 ○付箋1枚に自分の見つけた音を書き、それを基本単位とさせる。前時にグループで即興的に組み合わせた音の重なりを、シートと付箋を使って視覚化させ、音の組み合わせ方と付箋の関係を理解できるようにする。(グループの活動場所を設定) ◆自分たちのグループの音の組み合わせ方について興味関心を持ち、考えを伝えあいながら、音の組み合わせを視覚化していく。 C: わからないことや考えていることを聞くなどして、自分の思いを伝えられるようにする。 	【思・判・表②演奏聴取、発言内容】
4	<ul style="list-style-type: none"> ・まねっこ遊び ・グループで即興的に作った音楽を発表する。 ●それぞれのグループの音楽はどんな工夫をしているか気づく。【縦と横の関係、反復、音色、強弱、重なり】 ・シートと付箋の使い方について理解する。 ・グループ毎に一番つくってみたい音のテーマを決める。(台風、登校の時間、そうじ、お料理、お風呂、2時休みの校庭) ・グループで音楽にしてみたいイメージを決めて、それを付箋に書く。(例:一生懸命お掃除をしているところ、お風呂できれいになろう!) 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時作成したシートを掲示して、グループ発表をさせる。作った音楽と、シートと付箋の表現の仕方についての工夫を評価する。 ○教師が作った2~3人のグループ7つを発表する。グループ毎にやりたいテーマを選ばせる。 ○選んだテーマについてイメージを持たせ、次時の音楽づくりへの意欲を持たせる。 ◆どのような音楽にするかについて思いを持つことができる。 C: わからないことや考えていることを聞くなどして、自分の思いを伝えられるようにする。 	【思・判・表②演奏聴取、発言内容】
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・まねっこ遊び ●グループのイメージに合うように声の音色を生かし、組み合わせ方が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、声の重ね方、反復の仕方を考えて音楽をつくる。【縦と横の関係、反復、音色、強弱、重なり】 	<ul style="list-style-type: none"> ◆グループのイメージを基に、声の組み合わせや工夫が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽づくりの発想を得ている。 C: わからないことや考えていることを聞くなどして、自分の思いを伝えられるようにする。 ◆各グループで作った音楽を発表したり聴き合ったりする学習を通して、主体的に学習活動に取り組むことができる。 	【思・判・表②演奏聴取、発言内容】 【知・技④演奏聴取】

6 本時案

(1) 主眼

音のテーマを決め、そのテーマから音楽にしてみたいイメージを決めた子どもたちが、そのイメージを基にそれぞれの音を組み合わせる場面で、グループの友達と声を出しあったり、シート&付箋を使って考えを伝え合ったりすることを通して、音の組み合わせや声の強弱、音色などを工夫して音楽をつくることができる。

(2) 本時の位置

5時間扱い中の第5時

(3) 指導上の留意点

- ・ウイルス感染防止のためマスクを着用させる。
- ・二人のグループは教師が3つめの音をフォローする。

(4) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	教師の指導	評価	時間	備考
導入	1 常時活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ていねいに歌えたよ。 ・面白い声でやってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習曲を歌わせる。 ・まねっこ遊びを行う。 		5	
	2 本時の学習を確認する。	<p>学習問題：グループのイメージに合うように音楽をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽室のそうじをしているところ。 ・いろいろな音のおふろ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つのグループに作りたい音楽のイメージを発表させ、イメージを持って作ることを意識させる。 		5	
	3 グループに分かれて音楽づくりをする。	<p>学習課題：音の組み合わせ方や声の強弱や音色を工夫してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうじきとぞうきんの音を重ねてみたい。 ・重ねたりずらしたりしてみたいな。 ・おふろのいろいろな音はどう組み合わせると楽しくなるかな。 ・そうじきが最初かな。途中からぞうきんの音を入れよう。交代で言うのと重ねるとどっちがいいかな〈組み合わせ〉。はたきの音は小さい方がいい？〈強弱〉。あちこちはたく感じにしたいから二回繰り返そう〈反復〉。 ・やってみよう。なんか合わないな。手拍子入れる人が必要だよ。でも音を言いながらだと難しいね。 ・飛び込む音は「バツシャン」しずくの音は「ピチャッピチャッピチャッ」。シャワーは「ザーザー」 ・「バツシャン」は元気のいい音がいいよね。次は小さな音〈強弱〉で「ピチャッピチャッピチャッ」〈音色〉って感じはどう。シャワーの音を重ねたいな。〈重なり〉。 ・できたよ。練習しよう。 ・ちょっと変えたいところがあるよ。最後はお風呂から上がる音をみんなで言おう。ここは大きな音にしよう。〈重なり、強弱〉 ・私たちのイメージは「いろいろな音のおふろ」です。→発表 ・シャワーの音としずくの音が重なっていて、おふろの感じが出ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シートと付箋の使い方を確認する。 ・作る場所（音楽室と学習室）を確認し、時間の目安を示す。 ・困っている児童には、重ね方やつなげ方のアドバイスをしたり、声を出させたりして、イメージが音で表現できるように支援する。 ・子どもたちが何をやろうとしているかを聞き出し、それが音の工夫につながるようにする。 ・縦が合わない場合は、1小節に音がどう入るのか付箋に正確に書かせたり、拍打ちや付箋表の指さしをしたりして、音楽の縦の流れが整うよう支援する。 ・組み合わせだけでなく、音色や強弱などの工夫ができていたら褒めて認めていく。ふせんでもそれがわかるように表現させる。 		15	
展開			<p>どんな音楽にしたいかについてのイメージを基に、音の組み合わせが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、表現を工夫することができる。【思、判、表 ②演奏聴取、発言内容】</p>			

終末	<p>4 グループ発表。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お風呂から上がるときの音が大きくてびっくりした。3人そろっていたところが面白かった。 ・おそうじのときにはいろいろな音がしていることがわかった。そうじきの音とぞうきんの音が重なるところが長いので、一生懸命そうじをしている感じがした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを伝えてから発表する。(グループ発表1分目安) ・発表の時は、ずれないように教師が拍打ちをする。 ・グループ発表が終わるごとによい点を2～3人に発表させ、よさを共有させる。 ・授業について振り返り、感想を発表させる。 	17	できたシート
	<p>5 自分たちの発表と友だちの発表について学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私のしずくの音とSさんのシャワーの音が重なってきれいな音になったと思う。いろいろな音のおふろの感じにできたと思う。 ・最後、3人で大きな音でぴったり合わせられたのでお風呂から上がる感じが出せたと思う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>音を組み合わせたり、声の強弱や音色の工夫などしたりして音楽をつくることができる。【技④演奏聴取、記述内容、発言内容】</p> </div>	3	

本時の視点

- ・事前にグループでイメージを持たせたことは、子どもたちが「音の組み合わせや声の強弱」、「音色をどのように工夫するのか」、を決める上で有効であったか。
- ・シート&付箋を利用した視覚支援は、子どもたちが「音の組み合わせや声の強弱」、「音色」について共通理解したり、工夫したりしていくために有効だったか。

指導主事の先生からのご指導

音楽遊びを積極的に取り入れていた授業であった。特に、低学年は遊びから学んでいくので、この学習は多くのことを身につけていくことにつながる。

1, 2年生のめあては「思いを持って工夫していく」ことである。本時でその部分は上手にできていたと感じる。学びのスタートが身近な音からなので、子どもたちは思いを持ちやすい。また、3, 4年生のめあては「思いや意図を持つ」ことである。「音楽づくり」で大事なことは2つあり、それは条件付けをすることと見通しをもつことである。条件付けで大切になってくるのは、こちらの意図をあらかじめ絞り込んでおくことである。扱う言葉の種類も複雑でないのがよい。どのような音楽をどのようにつなぐか見通しがあることが大切である。

授業中盤に置かれていた中間発表は有効であった。見取りを大切にし、子どもたちに広めたい表現を行っているグループをピンポイントで取り上げるとよい。

終末での発表は、7班全ての発表が滞りなくできていた。また本時は、付箋を用いたことが有効であった。子どもたちは付箋を上手に活用し学びを深めていた。子どもたちにとって見やすく使いやすかった。掲示することで、目からも耳からも情報が入る。同じ物を見て聞いて考える。ボードを用いたことも、見る人も聞く人もどんな構造になっているかわりやすく有効であった。発表はそれぞれのグループが個性的なものになっていた。

今後の課題として、本時で大切にしていた「工夫」について、どのようなものが工夫にあたるのかモデルを示していくことである。例えば「音色の工夫」をすることは、子どもたちが考える、低い声と高い声を意味づけてやるのに有効である。

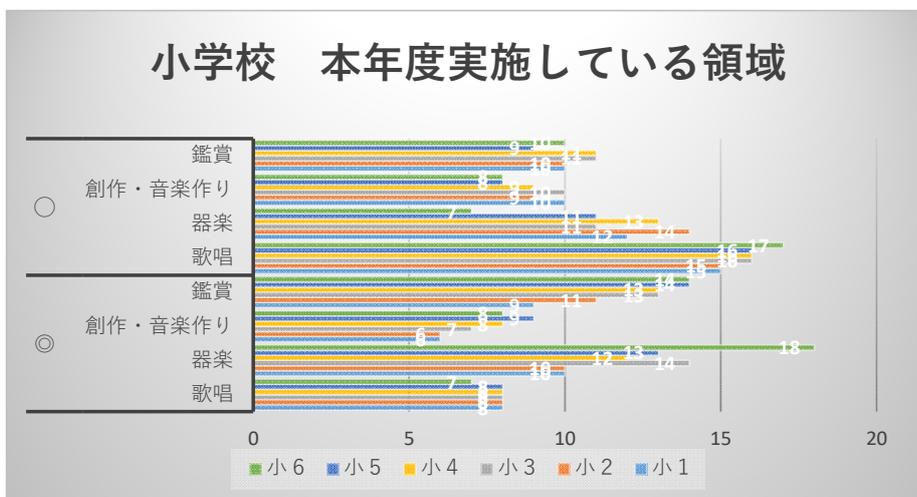
本時の授業では、仕組みを生かした「音楽づくり」の学習の範を示していただいた。

2 音楽教育に関するアンケート

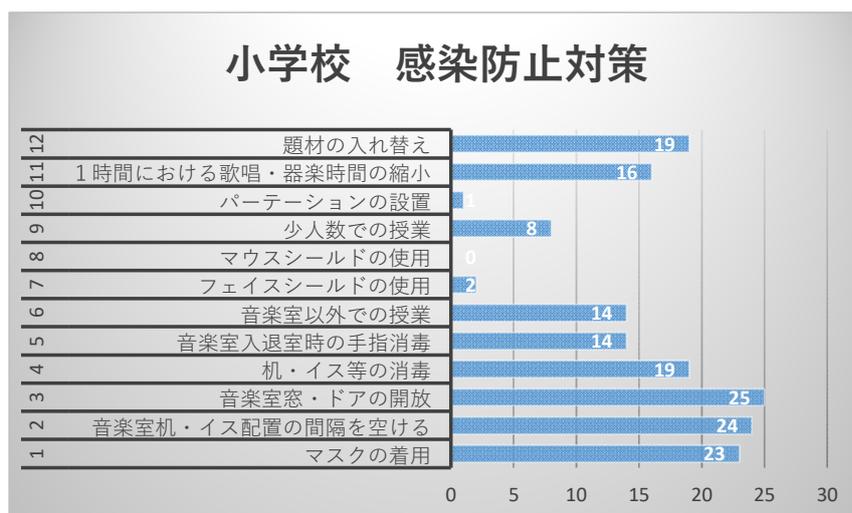
小学校

【音楽の授業について】

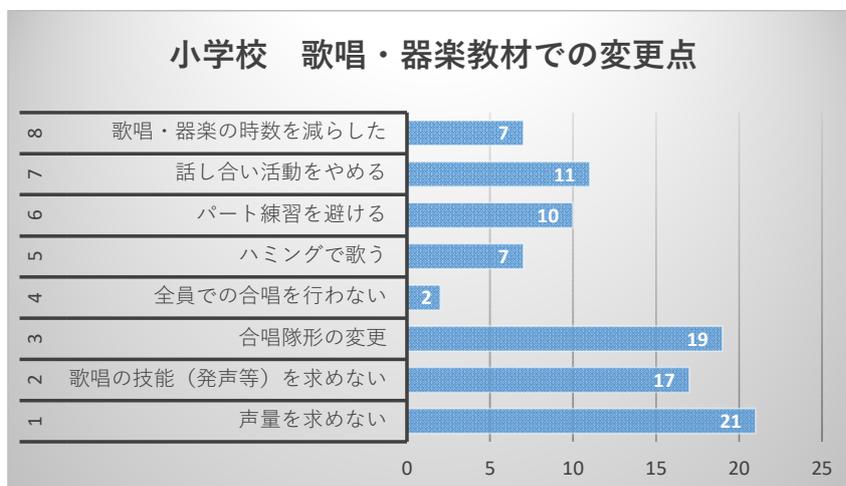
1 本年度、現在にいたるまで行っている授業をお知らせください。主として行っていることに◎、副として行っていることに○をお願いします。(複数回答可)



2 自校音楽科で行っている感染防止対策について○をお願いします。(複数回答可)



3 歌唱・器楽教材において、コロナ以前の授業内容と変更した点について○をお願いします。(複数回答可)



〈考察〉

中学校とは異なり、4分野全ての領域において万遍なく学習が行われている。主としての学習は中学が歌唱であるのに対し小学校では器楽・鑑賞領域に重点が置かれており、より感染対策に留意している様子がうかがえる。学年による偏りもあり中学年で全領域に取り組んでいる傾向があるのはなぜなのか探してみたい。

音楽室の窓・ドアの開放はもちろん、イスの間隔を開けたりマスクを着用したりなどの一般的な感染対策が十分に取られている。題材の入れ替えもほとんどの学校で取られており、工夫の様子がうかがえる。少人数での学習を取り入れている学校も多く、どのような形態なのか興味がある。

最も多い対策が声量を求めないことにあることから、小学校での実践の苦勞がうかがえる。児童の歌唱意欲や技能の低下を感じている先生が多く、現況においていかに技能や意欲を下げず対応をしていくのかが問われていると思われる。

4 音楽科の授業について、コロナ以前と現在の授業を比較して教えてください。

(1) やりづらくなった点

- ・マスク着用により表情がよくわからないため、名前が覚えられない。(北御牧小)
- ・歌っているかどうかよくわからないため、1学期の歌唱の評価がつけられなかった。(北御牧小)
- ・あまり練習時間が取れないため、楽器の上達が遅い。(北御牧小)
- ・歌えないのでなんとなく淡々とした授業になってしまう。(北御牧小)
- ・マスクをしての歌唱の評価。(城下小)
- ・グループで考え合う、教え合う、練習する、向き合って歌う、リコーダーを吹くなど、やりたいけれどできない活動が多い。(城下小)
- ・友だちと声をそろえる、聞き合う活動が、密のため雰囲気を取り扱う。(北小)
- ・鍵盤、リコーダーの個人持ち楽器は、吹く楽器のため、やる場所に限りがある。(北小)
- ・マスクで口の開け方を見ることができない。また、大きな声を求めることもできない。結果ほとんど歌を歌っていない。(川西小)
- ・児童や教師がマスクをつけなければならないこと。(西内小)
- ・使用時の換気や消毒に時間がかかること。(西内小)
- ・歌唱に、声量、技能を求められない。(中塩田小)
- ・ペア学習のような子ども同士の関わり(練習、評価)のある学習ができない。(中塩田小)
- ・鍵盤ハーモニカ、リコーダーが利用できない。(中塩田小)
- ・歌うこと、リコーダーやピアノ、コカリナの演奏。(浦里小)
- ・マスク着用により口の開き方、表情が見えない。(豊殿小)
- ・表現の深まりや、技能の向上を求めにくくなった。(豊殿小)
- ・一体感を感じながらみんなで楽しめる活動(グループ活動、身体の接触を伴う活動など)(豊殿小)
- ・歌が歌えない(聞き合うことができない)(塩田西小)
- ・距離をとらないといけない。(塩田西小)
- ・消毒が大変。(塩田西小)
- ・飛沫のことをいつも考えないといけない。(塩田西小)
- ・歌唱で、体いっぱい使って声を出し、響きに近づけたり、大きな表現をさせたりしたいが、それができず、消化不良な感じが拭えない。(傍陽小)
- ・話し合い活動、パート・ペア・グループ活動が十分行えない。(傍陽小)
- ・飛沫を防ぐために、今まで以上に児童に指示的な指導をしなくてはならない。(傍陽小)
- ・特に歌唱は技能を向上させるような授業はできず、マスクをつけたまま1回歌ってみるなどしかできないので、積み重ねができない。(本原小)
- ・1学期は、人数の多いクラスは半分ずつに分けて少人数で授業することも行ったが、時数の確保が難しい。(本原小)
- ・マスクをつけたまま歌っているため、個々がどのくらい歌っているかが分かりづらい。(本原小)
- ・ペア学習やグループ学習などが出来ないのが、やりづらい。(本原小)
- ・児童同士のかかわり合いのある授業展開(塩尻小)
- ・示範演奏や実演での比較(塩尻小)
- ・マスクをかけることで、声量も言葉の明確さも求められなくなっている。私自身があきらめて。(丸子中央小)
- ・マスクをして歌うようになったら、歌声が一気に小さくなってしまった。(清明小)
- ・しゃべる声も張りがなくなってしまった。(清明小)
- ・高学年のパート練習ができなくなり、一斉授業となった。(清明小)
- ・思いきり歌えない、活動できない。(青木小)
- ・音楽のあふれる学校生活が送れない。(全校音楽や音楽会の中止など)(青木小)
- ・口の形がマスクで分からず、歌っているかどうか分からない。(1年生)(南小)
- ・全員での合唱や演奏、手遊びなどができない。(2年生)(南小)
- ・しっかり声を出して歌ったり、歌声を高める学習ができない。リコーダー学習で、一斉に音を出すことができず、時間がかかる。待ち時間が多くなる。最初のころは鑑賞しかできず、授業組み立てが大変だった。又、聴かせ方も、これまでとは違う方法をとらなければならない(友と関わりながら聴く、捉える、話し合いができないため)大変だった。みんなでの手遊び、リズム遊びができない。(3~6年生)(南小)
- ・近くの席同士での意見交換(和田小)

- ・ペアやグループで一緒に楽器を演奏する活動(和田小)
- ・パート等で向かい合う隊形での合唱(和田小)
- ・手を打ち合う等の、友達同士と触れ合う活動(和田小)
- ・マスクを着用していると、歌にくい、暑い、口形が見えない。(和中小)
- ・マスクの着用により、歌唱時に息が吸いにくいという子どもの声が多く聞こえた。(菅平小中)
- ・広い部屋(多目的ホール)を授業で使用して、机の間隔を開けたら、黒板が見えにくくなってしまった。(菅平小中)
- ・思いきり歌を歌うことができないので、歌唱指導が深く追究できない。(武石小)
- ・広い場所で指導をしているので、黒板が見えにくい児童が多い。また、指導の声も届きにくい。(武石小)
- ・マスクをして歌うと、表情が見えにくい。(武石小)
- ・歌唱指導で、飛沫を気にして距離をとると、不安になる児童がいる。(武石小)
- ・マスクをしているので、ひとりひとりの表情や口の開け方がわかりづらい。個人指導がしづらく、全体の指導で意識を落とさないような指導しかできない。(丸子北小)
- ・マスクで、子どもたちの表情が分かりづらい。(滋野小)
- ・子どもたち同士の関わり合いを、制限してしまう授業展開になっている。(滋野小)
- ・どこまで、安全対策をすればいいのか、よくわからない。(滋野小)
- ・合唱、歌唱の授業がしづらい。(滋野小)
- ・1、2年生で体をうごかして活動する内容の制限がある。(長門小)
- ・グループ活動に制限がある。(長門小)

(2) 工夫したことにより新しい発見があった点

- ・書かせることが増えたので、あまり目立たない子の感じたことがわかりやすくなった。(北御牧小)
- ・曲の特徴に気づかせる展開が多くなったので、今まであまり丁寧に扱えなかった学習ができる。(北御牧小)
- ・拍打ちやリズムに注目して手拍子、動作化などができる。(北御牧小)
- ・リコーダーは以前よりマスクをしたまま、①階名唱②階名唱+運指③タンギング唱+運指の時間を多くとり、実際に吹く時間は短くなっているが、同じように吹けるようになっている。(城下小)
- ・音がない活動をすることで、音が聞こえる楽しさや喜びを再確認する。(北小)
- ・2m感覚の座席は机間巡視しやすく、一人一人の様子がよく見える。私語が少なくなり、より集中して取り組めるようになった。(川西小)
- ・本校は元来少人数で授業を行っているので、感染予防はするものの大きな不便は感じなかったこと。(西内小)
- ・鍵盤のプリントによる、指使いの練習は、音が出ない分、落ち着いて繰り返しの練習ができる。(中塩田小)
- ・オルガン等で実際、音が出せるようになると、正しい指使いで弾けるようになっている児童が多い。(中塩田小)
- ・衛生面で、児童の意識が高くなった。今まで飛沫や唾など気にしていなかったが、児童自身が気をつけている。(傍陽小)
- ・工夫ではないが、学級でも朝の会などで歌唱は行っていないし、授業でも10分と歌わないので、歌唱力や歌唱意欲が低下することを心配しているが、時折大声で歌う場面で、しっかりと歌えており、児童の歌唱意欲をあらためて発見できた。(傍陽小)
- ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの学習では、マスクをつけたまま運指だけ練習する時間を多くとったが、息を使わなくても結構有効的な練習である。(本原小)
- ・3年生以上は、階名や記号の学習をいつもの年より多く取り入れたが、ずいぶん出来るようになってきた。(本原小)
- ・鑑賞の題材として、情景音楽をもとに比較鑑賞を新たに取り入れるようにできた。(塩尻小)
- ・二部屋に分かれて器楽と鑑賞を同時進行することで、一人での個別支援が少し可能になった。(塩尻小)
- ・マスクをしたままリコーダーと鍵盤ハーモニカを吹けるようにしたことで、音を通した関わりと感染症対策の両立が図れた。(塩尻小)
- ・休校明け、先生方に子どもたちと一緒に歌いたい歌のアンケートを取り、1枚のCDに焼いて配った。たのしい歌の歌集に載っている歌を日頃なかなか扱えていなかったが、朝の時間に扱ってもらったり、給食時のBGMに流したりしてもらった。全校で歌う機会はないが、以前より知っている曲が増えた。(丸子中央小)
- ・3年生は例年4月から始めたリコーダーを入れて合奏をしていた。子どもを急がせるあまりタンギングや運指などを全体で丁寧に扱えず、結果として個人差が開いたり曖昧なタンギングになったりしていたが、今年度は焦らずに子ども達と楽しみながら進めていくことができる。音楽会がなかったことは残念だが、大切なことだと改めて感じた。(丸子中央小)
- ・教科書教材をすべてテレビ画面で提示し、必要な部分を拡大して提示したことで、スムーズに学習が進んだ。(清明小)
- ・鑑賞教材をじっくり扱える。(青木小)
- ・創作活動に時間がとれる。(青木小)
- ・バワポを使って、プレゼンのように鑑賞の授業を実施した(これまでは部分的な使用だった)。→視覚支援になり、楽曲の捉えがしやすくなった児童が増えたようだ。(同様に)理解が深まり、楽曲に興味を持ったり、日記に感想を書いたり、これまで学習面でのコメントをすることがない児童がコメントしたり、担任の先生が驚いた、というような出来事があちこちのクラスで見られた、と反響をいただいた。(3~6年生)(南小)

- ・吹く人数を少なくし、待っている子は〔指使い(+タンギング or 階名読み)練習〕をする形式をとった。→じっくり運指、音符を確認することができ、とてもよかった。→階名を書く、リズムを読む、運指を確認する、がより定着した。→この学習スタイルから、自然発生的にリズムを打ってサポートする子が出てきたので、手拍子を入れたり楽器を入れたりしてみた。合奏形式が成立し、学習の楽しみ方が広がった。(3~6年生)(南小)
- ・大きな声や、シッカリ声を出して歌うことが出来ない代わりに、歌詞の中身や楽曲の背景、歴史、人々が抱くその曲への想いを理解して歌うことを大切にすることで、これまでとは違う歌唱法、味わい方ができた。(3~6年生)(南小)
- ・分散登校中、半数の授業は、一人一人が活躍でき、教師の手も入り、しっかり学習できた。(和小)
- ・音楽会は中止になったが、教科書曲の合奏は、曲が短く譜読みもしやすく小集団で工夫ができクラスで楽しく学習できた。(和小)
- ・机間巡視の際、1人1人の器楽の指導を、細かく見られるようになった。(武石小)
- ・ソーシャルディスタンスや、接触を避けながらやる音楽遊びの方法を模索できた。(滋野小)
- ・鑑賞の授業の教材研究を丁寧に行うようになった。新たな素材を開拓できた。(滋野小)
- ・被服室に長机を一人1台ずつ配置し、5,6年の学習を行っているため、動画の視聴や楽典等の学習、リズム譜の記譜、鑑賞の感想の記入などが丁寧にできる環境になった。(滋野小)
- ・移動が少ない分、おちついた学習ができる。(長門小)
- ・間隔をあけることで、音も聞きやすくなった。(長門小)

〈考察〉

やりづらくなった点として、マスク着用により、ほとんど歌わない。歌声・歌唱レベルの低下。指導がしづらくなった。全体での意識保持レベルに停滞が見られる。ということが主に挙げられている。また活動が制限される中から、リズム打ち、リズム遊び、歌、鍵盤ハーモニカやリコーダーなど、ほぼ全ての活動で、共に学ぶ、話し合う、協力する、深め高め合うという、音楽科ならではの活動ができないうちも上がっている。特に鍵盤ハーモニカやリコーダーの上達に時間がかかるようだ。結果として、音楽があふれる学校生活が送れない、クラス全体、又は全校での音楽活動ができない、と感じている先生が多い。

反面、書かせることで、普段あまり目立たない子の考えていることが見えてきた。歌えない時間がある分、歌える時に見せる歌唱意欲をより強く感じた。歌えない代わりに、歌詞の中身や曲の背景、その曲に抱く人々の思いを問うことに目を向け、これまでとは違う歌唱法、味わいが出来た、という成果もある。他にも、「マスクをしたまま楽器演奏が出来る方法を考案した」「歌いたい曲アンケートを実施し、1枚のCDに楽曲をまとめた」「衛生面での意識向上」「移動が少ない分、落ち着いて活動できる」という点を挙げている実践もある。多くの学校でやりづらくなった点がある中、新しい取り組みや発見・新しい価値観の構築等の事例がたくさん挙げられている。各校の工夫を共有し、互いに学んでいこうにしたい。

【音楽会について】

- 1 昨年までと変異になった点について教えてください。(合唱の隊形や鑑賞者の隊形についてもお書きください)
 - ・どういう形で行うか検討中。時期を含めて。(北御牧小)
 - ・いろいろ検討したが中止することになった。学年発表をクラス発表に、連学年ごとで入れ替え制、使用楽器の制限など検討したが、発表するためには、密集、密接は避けられないという判断になった。(城下小)
 - ・6月、ホールでの音楽会が、11月、学年ごと、教科書の歌唱1曲のみ。(北小)
 - ・マスク着用(北小)
 - ・録画し後日教室で鑑賞(北小)
 - ・音楽会ではなく、授業参観の中での学年ごとの発表会の形をとることになった。合唱はやらないことも含めて検討中。(川西小)
 - ・来賓に案内は出すが、席は特に設けず、保護者席と一緒にする。(西内小)
 - ・保護者席は広く配置し、密を避ける。(西内小)
 - ・PTAや地域の方の参加するステージをやめた。中高生が参加するステージも同様に中止。(西内小)
 - ・保護者席まで児童が入っての交流する曲はやめる。(西内小)
 - ・(今のところ)低学年と高学年に分かれて行う。鑑賞できない学年の演奏は、教室への配信で試聴する。保護者は6年生のみ各家庭1名のみ参加できる。(中塩田小)
 - ・内容はマスクをつけたままできる。楽器による合奏、リズム等を基本とする。(中塩田小)
 - ・まだ行っていないが、発表会の形をとる。地域の方の鑑賞は遠慮いただく。(浦里小)
 - ・全校一斉には行わず、3学期に学年参観日の中で、音楽的要素を取り入れた発表を予定している。(豊殿小)
 - ・合唱なし。お客さんはギャラリーで、1日ごとに学年の発表会を設ける。(塩田西小)
 - ・例年の音楽会と同型式で実施予定だが、いくつか対応をしている。(傍陽小)
- ①器楽合奏のみの発表で、各学年1ステージ、6年のみ2ステージ、職員、全校発表を行う。
- ②座席を前後1.5メートル間隔を取り、その都合で6年以外の保護者は各家庭1名の来場、6年は2名までそれに関わって、来賓・来入児・福祉施設の皆さん・地域の皆さんは招待しない。
- ③時間は例年3時間設定だったが、今年は2時間、年間計画の予定通りの日で、分散にせず1回で行う。
 - ・器楽中心で、6年生以外は1ステージで行う。全体合唱、PTA、職員のステージはなし。(本原小)
 - ・保護者は、各家庭1名のみ。来賓などの招待者はなし。(本原小)
 - ・学年ごとに入れ替え制で行う。(本原小)

- ・6月の音楽会はなしになった。代わりに11月の周年記念式典で、全校で合唱奏をする予定。今年度、全校でできた行事が一つもないので何とかできればよいと願うが、演奏隊形などこれから考えなければならないことが山積。(丸子中央小)
- ・全校一斉の音楽会は中止、低学年の日と高学年の日にかけて実施予定、発表は学年ごとで入れ替え。保護者の鑑賞は各家庭1名のみ。(神科小)
- ・今年度は、音楽会は中止。11月の参観日に、学年ごと入れ替え制で、普段の授業で扱った曲を中心に発表する予定。(体育館で)(清明小)
- ・器楽を中心に発表するが、合唱は全校クリアシートマスクを使って歌う予定。(清明小)
- ・1学期予定の音楽会は中止となった。(青木小)
- ・例年通りの開催はしない。(南小)
- ・形を変えて、実施したいと考えている(2学期中に実施予定)。(録画して、Zoomを使って、鑑賞しあう等)(南小)
- ・音楽会(6月中旬)は中止。(和田小)
- ・代替のステージとして、各学年の発表を参観日や全校音楽に分散させ実施。(和田小)
- ・合奏は吹奏楽器を避け、打楽器のみで演奏できる編成にした。(和田小)
- ・歌唱は約1メートル間隔で横一列(もしくは前後にかぶらないように)で整列。観客の最前列との間隔は5メートルほど空けた。(和田小)
- ・音楽会はやらない。2月3月の参観日に状況を見て、クラス内で発表する。(和小)
- ・小学校音楽会が中止(菅平小中)
- ・鑑賞者の隊形も1.5メートルほど間隔をとって設置。(菅平小中)
- ・入場者数の制限を行う。(武石小)
- ・短時間での開催。(武石小)
- ・座席の間隔、ステージでの立ち位置を広くとる。(武石小)
- ・換気の上、ヒーター使用の予定。(武石小)
- ・6月開催を10月の運動会後に変更してもらった。(丸子北小)
- ・会場は体育館で行うが、保護者を入れるか、全校を入れるか等、コロナの状況を見つつ、検討中である。(丸子北小)
- ・昨年までは、歌唱と器楽の2ステージが基本となってプログラムを組んでいたが、今年は時間の短縮も考え、学年ごとに歌唱と合奏を続けて行う。(丸子北小)
- ・10月にサンテラスホールで行う予定だった音楽会は、中止。代わりに、体育館で学年別に音楽等学習発表参観として実施予定。各家庭2名までの参観とする。(パイプ椅子100を用意。市松模様に配置予定)各学年20分の発表で、30分の入れ替えの時間を確保。その間に換気・消毒等行う。合唱の隊形も、間隔を開けて立つようにする。(滋野小)
- ・音楽会は中止となった。(長門小)

2 工夫している点について教えてください。

- ・中止になったので、クラスごとに合奏の学習を取れ入れている。リコーダー、鍵盤ハーモニカ、アコーディオンは使用せず、オルガン、木琴、鉄琴、打楽器、ピアノで編成して行う。(城下小)
- ・あくまでも授業で学んだことの発表会というスタンスでいく予定で、昨年までのような「合唱と合奏」にはしないつもり。(川西小)
- ・授業の延長での発表会という意味づけをより強調し、過度に練習しない。(西内小)
- ・オルガン30台以上、木琴、鉄琴、アコーディオン、打楽器等にダンス等のパフォーマンスも入れる計画。(中塩田小)
- ・鍵盤ハーモニカ、リコーダーを使わない。(塩田西小)
- ・感染予防に関して、例年がない取り組みを行う。(傍陽小)
- ①体育館入場時、ステージ登降壇時の手指消毒、当日朝の健康観察カード(保護者も)の提出のお願い演奏会中の何回かの換気、扉を開いたままの実施、演奏以外はマスク着用等。
- ②あとは、人数がすくないので、ステージ上でも密にならず演奏ができるのでありがたい。
- ・共用楽器はできるだけ減らす。(本原小)
- ・マレット、小さな打楽器は、できるだけ個人用にする。(本原小)
- ・合奏を基本にして、学級での演奏と工夫ができる題材を取り入れることにしている。(塩尻小)
- ・3学期の授業参観等で学年別の音楽発表を検討。(青木小)
- ・必要な時だけマスクを外す。(1年生)(南小)
- ・2月3月も状況によっては発表できないことも考えられるので、授業で仕上がった曲は録画しておいて。(和小)
- ・バチなど、共通楽器類をその都度消毒する。(可能な限り)(武石小)
- ・本番ステージ以外はマスク着用。(武石小)
- ・ステージに登るのは1回で、合唱と合奏を続けて発表する。(武石小)
- ・保護者を会場に入れなかった場合は、①ZOOMを使って各教室にいる保護者に見てもらう。②ケーブルテレビに協力していただき、オンライン配信で保護者は在宅のまま見ていただく、など考えている。(丸子北小)
- ・特別時間割になると、1学年1時間ずつ体育館を使うので、5分は早く授業を切り上げ、換気・手洗いを徹底したいと考えている。(滋野小)
- ・音楽の授業で活動したことをビデオに撮り、音楽集会で流したり、地域のテレビで放映してもらったりした。(長門小)

〈考察〉

次の5つのパターンにまとめられる。

○音楽会を中止

音楽会を中止した学校が5校あった。学年発表をクラス発表に、連学年ごとで入れ替え制、使用楽器の制限など検討したが、発表するためには、密集、密接は避けられないという判断になった。

○形を変えて実施(予定)

時期や、発表のやり方を工夫して実施する学校が多い。学年ごとの発表、録音して後日鑑賞する、参観日に併せて行うなどの工夫が見られる。

○感染対策をして実施(予定)

感染症対策をして実施する学校が多い。その際、①入場者数の制限 ②時間の短縮 ③並び方の工夫 ④マスクの着用、消毒、換気などを講じている。

○演奏内容を工夫

内容を精選して無理のない範囲で実施している学校が多い。・教科書の歌唱1曲のみ・時間の使い方歌唱は行わず器楽を中心にする・学年ではなく学級で行うなどの工夫を行っている。

○その他の工夫

ICT機器の活用の工夫などに学びたい。

【音楽科の学習全般について】

1 コロナ禍で、音楽の力をつけるためにどのようなことが必要とお考えですか。

- ・子どもがワクワクするようなことを取り入れる。(北御牧小)
- ・教師があまりあせらないこと。(北御牧小)
- ・子どもの心情に合う曲を、歌える範囲で歌うことを続けていく。(北御牧小)
- ・音楽室に大きく広がって座っているので、掲示物の準備をできるだけ大きく作成する。(城下小)
- ・演奏して、合わせて得られる達成感を味あわせる。(城下小)
- ・できなくなったことを嘆くのではなく、できることを見つけて取り組む。(北小)
- ・カードに記入、読譜力などいろいろな活動をバランスよく行っていく。(北小)
- ・小さい打楽器などを活用し、アンサンブルを楽しむ力をつけたい。(川西小)
- ・鑑賞や音楽づくりで、もっと「考える」場面を増やし、音楽の力というより、考える力をつける授業がしたいと考え模索中。(川西小)
- ・変わらず歌声の響く教室、学校であることを目指す。(西内小)
- ・歌の指導に偏重せず、器楽にも時間を当てるようにする。(西内小)
- ・まずはこれだけの制限がある中で、楽しみながらできる学習活動を考え続けること。(中塩田小)
- ・歌唱、器楽、鑑賞、創作の全分野、領域において、できる範囲、指導が可能な中で、環境を整え、今できることは何かを考えながら取り組んでいく。(豊殿小)
- ・コロナ前と同じ力をつけることが必要。(塩田西小)
- ・表現することに今まで気持ちの主軸があった自分に気づけた。鑑賞をじっくり行うことで音響の「知覚」が、さまざまな要素が児童の心の中に含み込まれ、感動の「感受」に繋がることを今体感している。大きな意識の改革が自分の中で行われた。(傍陽小)
- ・楽しく取り組めることが大切(本原小)
- ・廊下や外に1列に並んでの器楽練習を続けるのではなく、音でかかわれる状況をつくるようにしたい。(塩尻小)
- ・楽譜を見る力や音楽を特徴づける要素について、工夫の仕方でもっとじっくり扱えるように思う。(丸子中央小)
- ・今まで以上に豊かな感性と心(神科小)
- ・音楽会で技術を高める演奏に費やす時間を、教科書教材の4領域(基礎・基本)をきちんと扱い、指導することが大切だと思う。(清明小)
- ・音楽から離れない学校生活を心がけたい。今は授業のみの音楽活動なので学級でも徐々に音楽を取り入れていけるようにしていきたい。(青木小)
- ・短縮してでも、回数を減らさない。触れさせる機会をとる。(1年生)(南小)
- ・友と触れ合って、体得することがなかなかできないので、アナリーゼ的な解釈(知識的理解)で楽曲を捉える力が必要になったように思う。そのために、そこにつながる授業づくり、音楽的要素や楽曲の捉え方を平易にして提示する等、これまで以上に必要になった。まずは、音楽に触れる機会を持つ。どのように出会わせ、聴かせ、理解させるか、これまでとは違う与え方、捉え方、それらを併せ持つ力を持たせる、又、そこにつながる気づきをさせることが大切だと思う。(3~6年生)(南小)
- ・階名唱や音程感覚の練習(苦手な子が多いので)(和田小)
- ・つける力を絞る、つける力を重点的に学習させていく。(和小)
- ・実際におこなわれている実験のデータなどをもとにした、歌唱授業などについてのガイドラインが上から提示されること。(菅平小中)
- ・工夫して器楽や歌唱の指導をしたり、鑑賞から表現につなげるような授業作りをする。(武石小)
- ・歌うこと、楽器を演奏すること、生の音楽を自分が作り出す経験はぜひ積み上げさせたい。(丸子北小)
- ・ICTを利用できる教師の研修(滋野小)
- ・音楽の力とは何かの洗い出し(滋野小)
- ・楽器の手入れや扱いに気をつけつつ、できる時間に集中して音楽活動に取り組むこと。(長門小)

2 児童・生徒の様子について、昨年度までと比べて様子に変化はありますか。

- ・歌唱力は確実に落ちた。声量、音程、合わせようとする雰囲気など。特に高学年。(北御牧小)
- ・声量が落ちている。しっかり歌うことが、声がかけてはっばかけないできなくなっている。(城下小)
- ・新しい生活様式は、表現を伸び伸び楽しむためには少し窮屈なこともあり、表現を味わうまでにはいかなないことから、気持ちの表し方が少ないところがある。(北小)
- ・1回の授業で1回だけ歌わせても、全然声が出なくなりました。残念。それ以外は特に変化なく、音楽の授業そのものにはよく取り組んでいる。(川西小)
- ・地域や保護者、家庭の前で披露することが少なくなり、目的意識が持ちにくくなったこと。(西内小)
- ・コロナ禍だと理解し、できることの中で楽しもうという気持ちを持って取り組んでいる。「もっと歌いたい」とは言うが、できないことに不満を言ったりはしていない。(中塩田小)
- ・まだわからない。歌いたがるが、これから寒くなるとなおさら制限されることになると思うと辛い。(浦里小)
- ・マスクをしているため、どんな表情で歌っているかがとらえにくく、声をしっかりと出さなくなった子もいる。(豊殿小)
- ・歌が歌えなくて悲しむ児童が多い。(塩田西小)
- ・何もかわっていないように見えます。表現方法に制約はあっても、音楽を楽しみ、頑張る姿に感謝しています。(傍陽小)
- ・歌への意欲や歌声が落ちているように思う。(本原小)
- ・じっくり取り組めて深まる題材と、なれないことに戸惑ってただ流れてしまう題材がある。教材研究の未熟さを感じる。(丸子中央小)
- ・気力がなくなっている、声が出ない(歌声に限らず)(神科小)
- ・歌を歌うには、エネルギーがいるし、心の開放が必要になる。全体的にパワー不足と心の開放が十分にできないでいる児童がいる。(清明小)
- ・行事など中止になり発表の場所がないためか目標が持てない。(青木小)
- ・パワポを使っただけの授業が増えたので、すべての学習を通して、見て・理解する形式となったが、映像・動画等を見ることに慣れている世代のためか、食いつきがよく、理解も早いように感じる。また、次はどんな切り口で来るのか、どんな映像が来るのかを楽しむ=授業を楽しむ?!姿があるように感じる。(南小)
- ・リコーダー学習の進め方が大きく変わった(半分の子が吹き、半分の子は待つ)。はじめは待つのがたいくつそうだったが、吹かない子は演奏に合わせて「階名・リズム・運指の確認」の時間としたことで、時間を有効に使えるようになった。又、待ちの間の学習スタイルが定着し、その活動がリコーダーを吹く前の重要な練習として位置づくようになり、子供たちも必要と感じていたり、楽しんでいる姿が見られる。(南小)
- ・休校明けは、歌声にならず、リコーダーの運指も忘れかけていた。(和小)
- ・児童にはあまり変化がないが、保護者が感染に対して敏感に反応しているように感じる。(武石小)
- ・マスクを付けて歌うことの窮屈さには、かなりとまどっていたが、最近は慣れてきているようである。(丸子北小)
- ・とても健気に真面目に授業に取り組んでいて、むしろ切ない気持ちになることがある。(滋野小)
- ・今年度から来たため、現在の子どもたちの変化は分からないが、高学年の子どもはソーシャル ディスタンスを保つことを意識している。(長門小)

3 現時点でのお悩みを教えてください。(授業・音楽会・部活動、クラブ活動等)

- ・目標がないこと。(北御牧小)
- ・どうしても高学年の授業が真面目になりすぎてしまう。特に苦手な子に対してはつまらないと思う。(北御牧小)
- ・今後の不安。落ちてしまった力をどのくらい元に戻せるか。(北御牧小)
- ・部に新入部員がほとんど入らない。(北御牧小)
- ・金管バンドは3パートずつや学年ごとに練習しているので、全員で曲を仕上げることができていない。音楽室で壁、窓側に並び外を向いて吹いている。拍打ちに合わせて吹いているので曲として仕上がっていない。発表の場の確保が難しい。発表に向けての練習は密は避けられない。レベルIになったので、全体合奏を10月から行っている。(城下小)
- ・とにかく発表する機会を何とかして作り出すことを考えている。(西内小)
- ・どこまでどのような感染対策が必要か、ということ提案していく立場となるため、毎日そのことを考え続けていること。(中塩田小)
- ・課外活動については日課の変更もあったため、時間の制限があり、全く練習できないでいる。(中塩田小)
- ・重唱などを楽しませたいが、今のところいろいろ心配でできていない。(浦里小)
- ・コロナの収束時期がわからず、先の見通しが立たないため、音楽活動全般において不安を感じている。(豊殿小)
- ・学校の新しい生活様式はいつまで続くのか。(マスク着用、密を避ける、消毒、向かい合って歌わない、楽器の共用は避けるなど)(豊殿小)
- ・現下の状況で行っていくのみなので、特に悩みはない。(傍陽小)
- ・悩みはいろいろとあるが、真田支会で相談して授業や課外活動の足並みをそろえて出来ているのありがたい。(本原小)
- ・課外活動の発表の場が1回しか持たず、6年生の最後のまとめをどうしたらよいか困っている。(本原小)
- ・部活動・・・目標がなく何となくやっている時間が長かった。周年記念行事で発表の場を用意していただいているが、今度は間に合わない焦っている。まとめの場もどのようにしたらよいか検討中。(丸子中央小)
- ・新しい生活様式にともない、新しい音楽学習の活動のあり方を考えていきたい。(神科小)
- ・合唱部はコンクールが中止になり、活動も休みになったりして、気持ちの維持が難しい。それに歌声もがくんと落ちてしまい、今までのような活気を戻すには相当困難だと思う。(清明小)

- ・感染警戒レベルからの判断だけで、どこまで活動してよいのか、できるのか常に不安な気持ちで取り組んでいる。周囲の学校の様子が知りたい。(青木小)
- ・休む時間が多いから、意識が途切れてしまうことがある。(1年生)(南小)
- ・歌いたいのが歌えない。一人一人は出来ていても、全体としてのまとまりを確認しにくい。歌唱の評価ができない。(2年生)(南小)
- ・これまでのような、歌唱表現、歌唱評価ができない。ほとんどの学習にパワポを使うことが多くなったので、準備に時間がかかり、仕事が増えた。が、どんな映像だとより分かってもらえるか、どんな切り口で行けば楽しく学べ、理解できるのかを楽しみながら準備している部分もある。自分も、また新たな楽曲の捉えができたところもある。(3~6年生)(南小)
- ・部員全員を集めての活動ができない。発表の場がないので、目的をもって活動することが厳しい。(録画し、Zoom音楽集会の中で、発信しようと考え、準備中)(部活動)(南小)
- ・全校音楽もなく、運動会に向け、全校で歌って確認したり、意識を高めることが難しかった。→動画を撮って、Zoom音楽集会を実施した。全校への発信ができ、共通理解が持て、みんなが繋がっていると感ずることもできた。→今後も、定期的に、Zoom音楽集会をし、各クラス、学年、部活からの発信をしたい。今できる最大限のスタイル、今年だからこの形で、全校が繋がる!ことをしていきたいと考えている。(南小)
- ・授業やブラスバンド部の活動の中で、友達と触れ合ったり演奏し合ったりする場面が少なくなっているため、早く制限が緩和されることを願っている。(和田小)
- ・マスクをしたままの学習は、歌いにくくて不快。しばらくは仕方ない。(和小)
- ・音楽会がなくなってしまったため、発表の場などが無い(小学校)。(菅平小中)
- ・10月末に音楽会を控えているが、どのような形でステージを構成するのがよいか、日々模索している。運動会もそうだが、発表の形は数日前に最終決定するような流動的な計画なので、その時点でのベストの発表の形をいくつも考えなければならないのは、負担を感じる。いろいろな活動が制限されたり中止される中で、特に6年生の子ども達の発表の場を作ることを最優先に考えると、負担とも言っていられないが…。(武石小)
- ・マスクを付けて歌うことで表情がわからないため、評価がづらい。(丸子北小)
- ・歌唱分野の評価をどのようにしたらよいか。(滋野小)
- ・金管バンド部員(85名)が一斉に活動することができないため、活動を縮小している。(滋野小)
- ・金管クラブを分散で行っているため、上達までに時間がかかる。(長門小)

〈考察〉

○「新しい生活様式」に適切に対応する

- ① クラスが入れ替わるたびに、室内の入口の戸や手に触れる部分の消毒をする。
- ② 基本的に楽器は個人持ちとし、共同で使うバチ等はその都度消毒をする。
- ③ 授業中換気を行う。
- ④ 一人一人の間隔を確保し、対面になっての歌唱や楽器演奏をしないよう気を付ける。
- ⑤ 音楽の授業専用のフェイスシールドを用意する。またはマスク着用で行う。

○マスク着用のまま行う歌声づくりに挑む

- ① 思わず歌いたくなるような題材との「出会い」を大切に授業づくりを心がける。
- ② 歌詞や曲想、曲の特徴、作曲者、曲の背景などについて、今まで以上に丁寧に扱い、一人ひとりが「思い」をもって歌えるように工夫する。

③ 口の開け方のみでこだわらず、目、姿勢、体全体を使った歌唱も取り入れる。

④ 歌唱と同時に「拍打ち」「リズム打ち」「動作化」を行うような表現活動も取り入れるようにする。

○音楽科における「協働の学び」を追い求める

① 「新しい生活様式」を取り入れた上で、3~5人程度の少人数グループごとによる歌唱、合奏、簡単な曲作りの場面を取り入れ、順番に発表し合ったり聴き合ったり、互いに評価し合ったりする場を設け、今まで以上に音楽に寄せる「心」を育てる。

② 一人ひとりが感じ取ったことを学習カードに記述することも取り入れ、互いに紹介し合う場を大切にすることで、音楽に対する「感受」の心を一層育てていく。

○工夫しながら発表の場を設けて、子どものモチベーションを維持する。

① 会場に参会できる人数をあらかじめ把握した上で、一定の制限を設け、子どもたちの発表の場を大切に考え、できる限り設けていく。

② 限られた時間と数々の制約の中での準備や練習になることを踏まえ、目新しい曲や大曲、難しい曲にこだわらず、普段の授業で扱っている楽曲に思いを寄せ合い、練り上げてみんなでつくりあげるステージを大切に考えた発表の場を設けていく。

③ 市町村、市町村教育委員会にも協力していただき、子どもたちのための発表の場として、近隣のホールや公民館など学校利用について、今まで以上に協力していただけるようお願いしていく。

④ 各学校での吹奏楽、金管バンド、合唱団などの成果を数校ごとに発表し合う交歓演奏会を音楽科や顧問が中心になって積極的に実施していくように取り組んでいく。

○感想

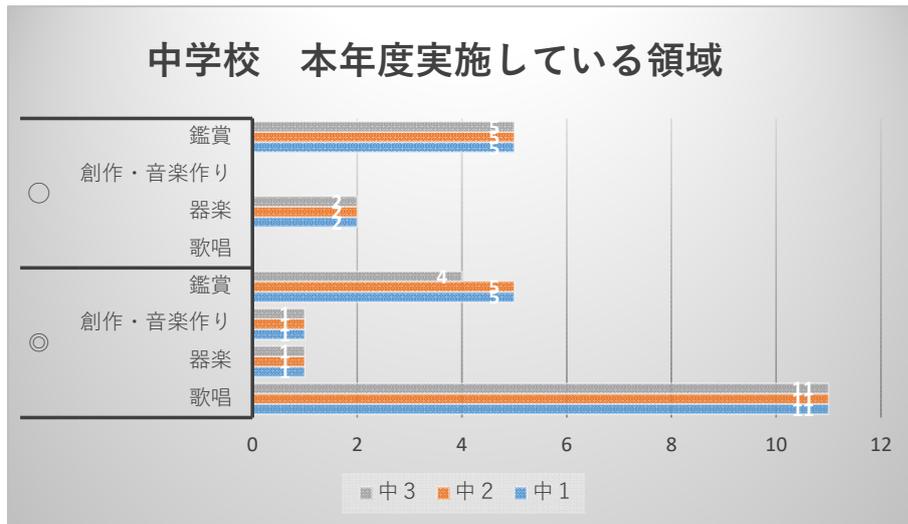
工夫して、今できることをやってみることかと思います。マスクやフェイスシールドの効果について、またマスクをしたままリコーダー、鍵盤ハーモニカ演奏ができる工夫など、参考になる新聞記事もあるので見て下さい。

(信濃毎日新聞2020年9月7日、9月22日、10月14日)

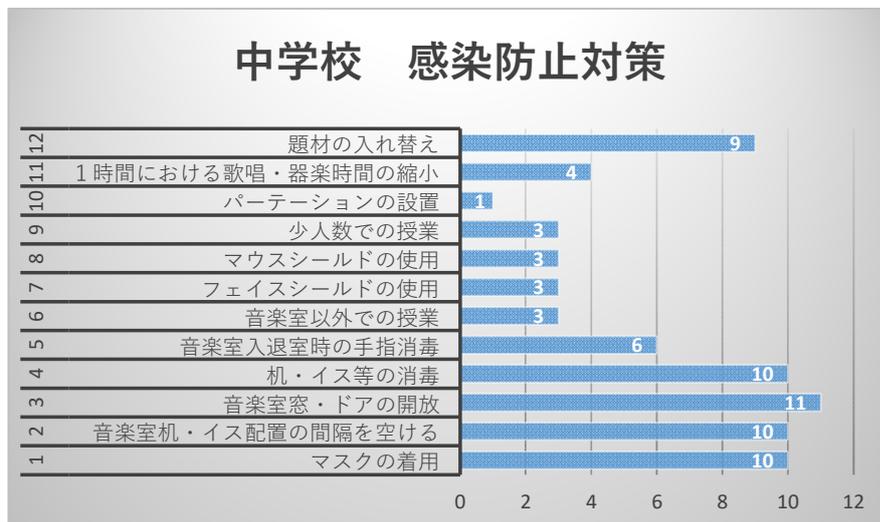
中学校

【音楽の授業について】

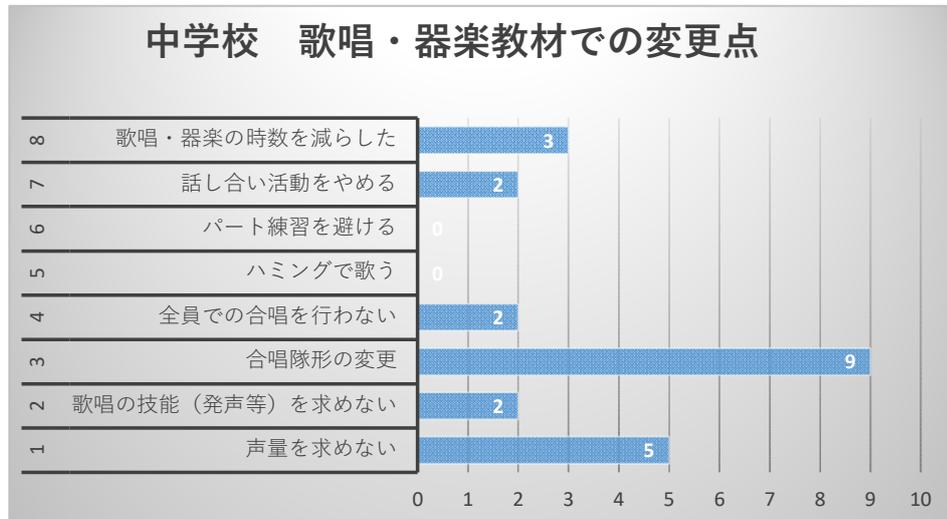
1 本年度、現在にいたるまで行っている授業をお知らせください。主として行っていることに◎、副として行っていることに○をお願いします。(複数回答可)



2 自校音楽科で行っている感染防止対策について○をお願いします。(複数回答可)



3 歌唱・器楽教材において、コロナ以前の授業内容と変更した点について○をお願いします。(複数回答可)



〈考察〉

歌唱については全学校で感染拡大予防の措置を行いながら実施している。文部科学省からの指針が提示されるまでは鑑賞の学習を行った学校が多い。

音楽室の窓やドアの開放に始まり、マスクの着用、消毒、イスの配置の間隔を広げるという一般的な対策が行われている。それに加え、フェイスシールド着用による合唱の授業を行うことにより、より声を出しやすくする工夫も見られる。題材を入れ替えることにより歌唱の学習を遅らせる措置を当初に取っている学校がやはり多い。

隊形を変更しての合唱が最も多くの学校で取られている。音量を求めない学習は、本来の音楽科の学習内容にそぐわないものであるが、このコロナ禍ではいたしかたないか。技能向上を求めない立場も取られており、評価基準の設定が難しいところである。

4 音楽科の授業について、コロナ以前と現在の授業を比較して教えてください。

(1) やりづらくなった点

- ・隊形を変えた（以前は横2列、現在は縦6列）ことによる歌いづらさ。（五中）
- ・合唱隊形で距離をとるため、歌いづらいと訴える生徒がいる。（東部中）
- ・技能観点の評価がしづらい。（東部中）
- ・一つ一つの学習活動に「感染予防」という意識を持つとなると、今まで普通に行われていた学習活動や指導がいかにかに当たり前ではなかったかと考えさせられた。いちいちこれは大丈夫かと神経を使っている。マスクをした状態で歌わせていることで口の開け方、形、息の流れなど本来具体的に個別に指導できていたことができなくなった。（青木中）
- ・今までの活動内容と実質的に変えられないこと。例えば距離を取って活動しようと呼びかけても、生徒はほとんど配慮をしてくれない。「離れて活動しよう。」と余計なことを言うこと自体が生徒の邪魔になってしまう。マスクをかけて活動しているので、生徒は力量を発揮できていないように思う。（六中）
- ・距離が離れたので、合唱でお互いの声を聞きづらくなった。（丸子中）
- ・マスク着用しているため、どのような口で歌っているか分からない。（丸子中）
- ・音楽授業＝飛沫発生。（丸子北中）
- ・授業時間は消毒や手洗いのため45分が基本。（丸子北中）
- ・2列隊形から3列隊形にしたことで聞き合う合唱活動ができなくなった。（二中）
- ・歌唱の時間を短縮するため、毎時間の開始に行っていた発声練習をやめたことによる歌唱力の低下。（二中）

(2) エ夫したことにより新しい発見があった点

- ・一人一人の様子をより丁寧に見ることができた。（机間巡視しやすい）（五中）
- ・他教室でのパート練習は、いろいろな事情で実施していなかったが、パートで1つの教室を使用できるようになって、距離をとって整列することで、授業に向かう姿勢が養われている。（東部中）
- ・当日ステージ上のみマスクを外して歌わせたが、練習段階のマスク着用効果なのか、豊かな音量になっていることに担任など職員が驚いていた。おそらく生徒がマスクをしていても、練習段階から一生懸命歌おうとしていたのであろうと思う。（青木中）
- ・フェイスシールドをすると自分の声が聞きやすくなる。（丸子中）
- ・思った以上に生徒は感染対策に適切に対応している。（丸子北中）
- ・授業に対してネガティブな意識や姿勢は思ったほど見られない。（丸子北中）
- ・授業を4列隊形にしたところ机間巡視がしやすくなった。（二中）

〈考察〉

多くの学校で、列の増加や距離を広くするなどの隊形の変更、マスクの着用などの感染対策を取っているが、合唱の活動においてはそれが弊害となり、生徒自身の聞き合いやアンサンブルに支障を来しているだけでなく、教師の側も、マスク着用のため生徒の口形を見ることができないため評価に難を感じている。消毒の時間の確保のため、授業時間の50分が確保できないのが実情であるようだ。反面、隊形の変更は教師による机間巡視をやりやすくし、一人一人のみとりには奏功している。生徒たちも距離があるために授業での秩序が保たれているようだ。

【音楽会について】

- 1 昨年までと変更になった点について教えてください。（合唱の隊形や鑑賞者の隊形についてもお書きください）
- ・フェイスシールド着用。保護者入場禁止。学年合唱、全校合唱中止。（五中）
- ・体育館での音楽集会は実施していない。（東部中）
- ・対面での歌唱をなるべく避けている。（東部中）
- ・全校合唱、学年合唱を行わない。（東部中）
- ・校内音楽会を全校から学年へ変更。（東部中）
- ・共有のものを避ける意味で、音楽室のイスを使用していない。（東部中）
- ・基本的には同じ。来賓・保護者の参観はなし。（三中）

- ・審査員は依頼せず、校内（生徒・職員）で審査（三中）
- ・発表曲数の削減（青木中）
- ・隊形については、どちらも間隔を広げて実施した。（青木中）
- ・全校合唱、学年合唱はなし。クラス合唱のみ。（六中）
- ・全校合唱の中止（丸子中）
- ・学級合唱はクラスが同じ姉妹学級だけ体育館に集まり合唱・鑑賞を行い、他クラスは教室で中継を鑑賞する。（丸子中）
- ・イスの距離を空ける。（丸子中）
- ・フェイスシールドかマスク着用で合唱を行うことを検討している。（丸子中）
- ・観客は3年生の保護者のみに限定する。（丸子中）
- ・職員合唱は無し。（丸子中）
- ・学年合唱の時にクラスで1列になり、他クラスとの縦間隔を空ける。（丸子中）
- ・3列の合唱隊形で各列の距離を離す。横も可能な範囲で距離をとる。（丸子北中）
- ・時期を1ヶ月程度先に送る。（丸子北中）
- ・保護者の鑑賞はなし。（二中）

2 工夫している点について教えてください。

- ・鑑賞を休校後に実施。（東部中）
- ・音楽室に立ち位置を示すシールを貼った。（東部中）
- ・教室練習用に、教室にも立ち位置を示すシールを貼った。（東部中）
- ・学年ごとに、鑑賞者の入れ替え（会場は体育館）をした。各家庭最終的に2名までとした。（青木中）
- ・ステージの隅から隅まで広がって歌っている。歌いづらい。（六中）
- ・密にならないようにしている。（丸子中）
- ・3年生の保護者は2階のフロアで鑑賞し、生徒との接触を避ける。（丸子中）
- ・生徒は体育館いっぱい広がって椅子を配置する。学年、全校合唱は授業時に録画し、音楽会当日は合成編集をしたものを動画として流した。（二中）

〈考察〉

音楽会は全学校で実施されているが、クラス合唱に限られている。学年・全校合唱については全学校で見送られている。また保護者の会場での鑑賞は全学校で行われていないが、別教室での映像を通しての鑑賞などの配慮をしている学校もある。大規模校においては学年内音楽会の形で行っているようだ。本番では通常マスクからフェイスシールド、マウスシールドへ変更し実施している。

保護者の鑑賞方法については各校により工夫されており、できることを見つけ配慮している様子がわかる。生徒にはフェイスシールドやマウスシールドを着用させ、より達成感をもってもらえるよう工夫の様子が見られる。学年・全校合唱を動画編集により行った学校もある。

【音楽科の学習全般について】

1 コロナ禍で、音楽の力をつけるためにどのようなことが必要とお考えですか。

- ・ただ演奏したり鑑賞したりする授業から脱却した。（五中）
- ・コロナ禍で音楽を求める自分、テレビ番組、動画再生などについて考える。音楽と自分の生活がどのように結びついているかを考える。（東部中）
- ・今までできなかった内容（合唱コンや行事のために圧迫されていた内容）を積極的に行う。（三中）
- ・その段階（感染レベル）でできることをやるしかない。（青木中）
- ・1人で演奏できる力。今まで以上に必要だと感じている。（六中）
- ・様々な工夫をして、安心して学べる環境を作る。（丸子中）
- ・他校の事例を踏まえた授業の実践。（丸子中）
- ・感染対策は行いながらも、できるだけ制限はかけない。（丸子北中）
- ・より個々の状況や伸長に寄り添うような授業形態。（丸子北中）
- ・実技を縮小した分、考える学習が必要。（二中）

2 児童・生徒の様子について、昨年度までと比べて様子に変化はありますか。

- ・休校等によりブランクがあり、思うように歌えないと戸惑う生徒がいた。（五中）
- ・マスクを着用して歌う影響等で、心にもマスクを着けてしまう生徒もいて、声を出しにくい雰囲気があった。（東部中）
- ・声を出すことに抵抗を感じる生徒が増えたか？（三中）
- ・3年生については今まで以上によく活動している。休校開けは疲れたと愚痴をこぼしていた生徒達だったが、学校に来る方が気が楽で楽しいようで、ここところは疲れたと言わない。1・2年生は例年通り。（六中）
- ・文化祭に向かって盛り上がりつつある感じがうすい。（丸子中）
- ・声を出す機会が減っているからか、呼吸が浅く声量のコントロールができていない。（丸子中）
- ・特になし。（丸子北中）
- ・発声練習や交流合唱の活動がなくなったため、歌唱への意欲は低下した。（二中）

3 現時点でのお悩みを教えてください。(授業・音楽会・部活動、クラブ活動等)

- ・県独自のコロナ警戒レベルにより、どのレベルまで歌唱、器楽の活動が制限されるのか不明瞭であること。(五中)
- ・技能面での指導がしにくい。(東部中)
- ・部活動では、大会や演奏会の中止により、3年生には寂しい思いをさせている。活動の先の見通しがもちにくい。(東部中)
- ・授業や部活での感染がないよう十分留意しているが、やはり感染は心配である。(東部中)
- ・これはやってもいいか と考えなくてもよい活動をしたい。(青木中)
- ・目標の定め方がいまいち分からず。淡々とこなしていくしかないと思っている。(六中)
- ・冬に近づき、今までのような換気ができないことへの不安(丸子中)
- ・アンコンの打楽器チームのセッティングに部員が多く必要。各校の部員が集まると公民館が密になってしまう?(丸子中)
- ・音楽集会在1回もできず、下級生が上級生の姿から学ぶことができていない。(二中)
- ・学年合唱、全校合唱ができないため、意識の継続や意欲の発揮ができない。(二中)

〈考察〉

従来、中学校の音楽授業では、音楽会(合唱コンクール)に比重の割合が多くかかる傾向があったが、他分野の学習時間を増やすことができたり、1時間の内容をより詳細にすることができたりしているようだ。より個々の伸張に寄り添うことに重点がおかれるようになっている。

2ヶ月の休校により合唱活動が停止したことと、再開後の常時マスク着用していることは、合唱の技能の低下を招いている。声を出すことに抵抗を示す生徒が増えたようだ。絶対的な歌を歌う時間が減少しており、意欲や技能が低下したことは必然であるとも言える。

未曾有のできごとであり、どのような対応をすればよいのか明確な基準がないことが一番の悩みとして共通している。感染対策はするに越したことはないが、どこまでするべきなのかここからは実施して大丈夫なのかの判断が難しい。

音楽は飛沫を伴う活動であり、授業でも部活でも最も神経を注がなくてはならないところが共通の悩みである。

五 研究のまとめと課題

本委員会では本年度、主に下記の2点について研究を深めてきた。

① 北御牧小学校の、新学習指導要領開始に伴う、音楽づくり「せいかつの中にある音を楽しもう」の授業実践

この研究からわかってきたこととして

○児童の学びを保証する上で何が有効かを見極めること。低学年には低学年の、高学年には高学年の有効な手立てが、その題材、さらに授業ごとにある。より適切なものを見いだしていくことである。

○授業の中で、児童に工夫を示すことが大切である。それには、どういうことが工夫になっているのかのモデルを示すとよい。

○「音楽づくり」の授業では、条件付けと見通しを持つことの2点が特に重要になる。
が挙げられる。

② コロナ禍における音楽教育に関するアンケート

この研究からわかってきたこととして

○各校により工夫された実践が施されており、音楽の学びを止めていないことがわかった。

○活動の制限された中で、より教育的効果をねらった実践を見つけ出していくことに、音楽科の役割がある。

○制限の中から新しく発見されてきた利点があることも確かで、今後の音楽教育を考えていく上でも有効であること。

○各校の工夫された実践の中から、自校に活かせるものが数多くあり、次年度以降に取り入れていきたいと思うこと。

が挙げられる。

上記まとめと課題をふまえ、新指導要領実施にあたり、「対話的、主体的で深い学び」を音楽科でどのように解釈してくか、「音楽科におけるカリキュラムマネジメントの在り方」をどのように行っていくか、「コロナ禍における音楽教育」をどう実践していくかについて、さらに研究を深めていき、今後、本委員会から発信していければと思う。

六 委員名簿

推進係	滝澤 博子	会 計	石川 里沙
委員長	金井 也寸志	記 録	柳澤 ゆかり
副委員長	白井 叔子	委 員	唐木 和加奈